

どうする名古屋城

天守閣木造復元

Q & A



日本共産党名古屋市会議員団

尾張名古屋は城でもつ、と唄われた名古屋城。徳川家康の命によって築城され、1612年（慶長17年）に竣工した天守は、第二次世界大戦中の空襲によって焼失しましたが、再建を望む声の高まりによって、1959年に再建されました。

いま、その天守閣を解体して、今度は木造で復元するという構想が浮上しています。河村たかし市長は、木造復元に向けた予算を提出し、9月議会で可決しました。しかし、市民の盛り上がりはありません。

名古屋城をどうするのか、天守閣の解体・復元を急ぐ必要があるのか——このパンフレットは、市民のみなさんの疑問に答える形で作成しました。みなさんの議論に少しでも役立てば幸いです。

2015年12月

日本共産党名古屋市議員団

## 目次

Q1. 天守閣の解体・復元を言い出したのは？	2
Q2. 木造復元「調査費」が可決しましたが？	3
Q3. 再建するなら木造復元しかない？	6
Q4. 2020年の東京オリンピックまでに復元？	7
Q5. 史実に忠実な復元は可能？	8
Q6. 木造復元の事業費は400億円？	9
Q7. 経済効果100億円ってホント？	10
Q8. 名古屋城の魅力アップは？	11
Q9. 日本共産党市議団はどう考える？	13

# Q1

## 天守閣の解体・復元を言い出したのは？



# マニフェストに掲げた河村市長です

1959年に鉄筋コンクリートで再建された名古屋城天守閣は、その外観は昭和実測図にもとづき、正確に再現されています。内部は、本丸御殿の障壁画や武具などを展示する博物館としての機能を果たしています。

再建から半世紀以上が経過した天守は、石垣の変形やコンクリートの劣化、耐震性の確保などの課題が生じていることから、名古屋市の『特別史跡名古屋城跡全体整備計画』では、「天守の耐震改修などを行う」という方針が示されました。耐震改修を行えば、現在の天守閣はおおむね40年の寿命があるとされています。それなのに、どうして「木造復元」という話が出てきたのでしょうか。

## ■本丸御殿「一旦立ち止まって再検討」から天守「木造化推進」へひょう変

河村たかし市長が初当選した2009年4月の名古屋市長選挙では、建設工事が始まっていた名古屋城本丸御殿の復元など4大プロジェクトをどうするかが、争点の一つになりました。河村市長はマニフェストで、「名古屋4大プロジェクトは、一旦立ち止まって、実施時期や規模を再検討する」と公約しました。

ところが、本丸御殿の復元については、討論会を1回開いただけで、その年の8月に建設続行を判断。そればかりか、同年9月議会では日本共産党議員の質問にたいして、「私は天守閣木造復元派」「天守閣は、都市のシンボルは別個に要る」と答弁し、天守閣の木造化を言い始めました。

河村市長の辞職にともなって行われた2011年2月の出直し市長選挙で、河村市長はマニフェストに「名古屋城天守閣木造復元」を掲げました。市長選挙後の3月議会では、東日本大震災の直後だったことから、日本共産党は代表質問で、「こんなときに天守閣を木造につくりかえるのか、そんなお金があるなら被災地に回すべき」という市民の声を届けて、「天守閣の木造再建は今やるべきではない」と迫りました。これにたいして河村市長は、「全世界における名古屋ゆかりの人からカンパを求めてでも木造の復元。400年大事にすれば、また国宝になる」と言い放ちました。

こうして河村市長の「独走」によって天守閣木造復元問題が市政に持ち込まれたのです。

# Q2

## 木造復元「調査費」が可決しましたが？



# 市民意見も聞かず、木造復元に<sup>かじ</sup>舵を切る

2015年9月議会では、天守閣の木造復元に向けた補正予算が可決しました。この予算は、契約手法として技術提案・交渉方式を採用して木造復元に向けた手続きを開始し、木造復元の設計・施工を請け負うゼネコンを選定するところまで進める予定です。「調査費」と銘打っていますが、木造復元に本格的に踏み出す予算にはなりません。

### 技術提案・交渉方式とは？

技術的な難易度が高く、発注者が最適な仕様を設定できない工事などで、ゼネコンから技術的に優れた提案を公募し、提案を審査して選んだゼネコンと価格や施工方法などを交渉して決定する契約方式。東京オリンピックの新国立競技場建設でも採用されている。

### ■ 耐震改修 71%、木造復元 15%（ネットアンケート）

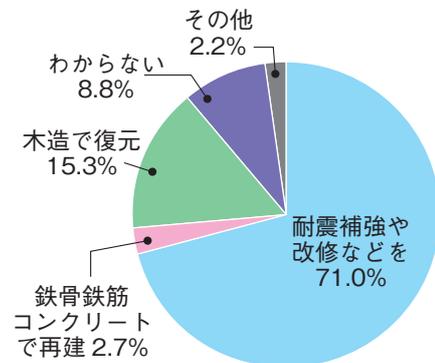
河村市長は木造復元に熱中していますが、市民はどうでしょう。

名古屋市が2014年2～3月に実施したネットモニター・アンケートでは、「天守閣を存続させて、耐震補強や改修などを行う」が71%であり、「天守閣を解体して、木造で復元する」は15%しかありませんでした。市民は木造復元に冷ややかです。

木造復元には市議会からも疑問が噴出し、9月議会前の市議会経済水道委員会で市は、「(天守閣)整備の選択肢を示しながら、市民の意見を聞く」という方針を示さざるをえませんでした。ところが、市民の意見を聞くこともなく、木造復元に向けた予算を提案したのです。

この予算に日本共産党市議団は、①市民の意見を聞かず、市民合意のない中で木造復元へと舵をきった、②2020年7月の東京オリンピックまでに竣工という無謀な方針となっている、③財源のメドがたたないままでの木造復元は、市

名古屋城天守閣をどうするか  
(名古屋市ネットモニターアンケート2014年2月)



### 共産党の反対討論に 自民市議「極めてまともなこと」

「(日本共産党の)西山氏の演説後、河村たかし市長が自席から『共産主義だ』とやじを飛ばすと、議案に賛成の自民の議員から『極めてまともなことを言っている』とたしなめられる場面もあった」  
(「中日」10月1日)

民の暮らしに犠牲を強いる恐れがある、④耐震改修を進めるという『特別史跡名古屋城跡全体整備計画』との整合性がとれないという4つの問題点を指摘し、木造復元を急ぐべきではないとの理由で反対しました。(詳細は次頁以降をご覧ください)

この予算に日本共産党以外の会派は、市民アンケートの実施を求める附帯決議をつけて賛成しました。附帯決議では、木造復元の概算経費が莫大なことから、「厳しい財政状況の中、市民生活に大きな影響を与える」という懸念も表明しています。

### 名古屋城天守閣 木造再建の想定スケジュール

区分	内容	
2015年11月	技術提案の募集※	文化庁・国土交通省へ相談
2015年12月 ～2016年3月	タウンミーティング等	
2016年3月	技術提案の審査・評価※ 優秀提案の選定 (工期・工程・概算事業費等)	
2016年4月 ～2020年7月	概算事業費の財源想定について市民・議会へ報告  市民アンケート  議案の提出(設計費予算)  基本協定締結・設計業務委託契約  設計の実施  <b>価格等の交渉※</b>  工事費の財源内訳について市民・議会へ報告  議案の提出(工事費予算)  議案の提出(工事契約)  工事請負の契約  工事着手  天守閣竣工	文化庁・国土交通省との協議開始      文化庁 国交省 復元検討委員会 交付金要望  ・文化庁へ現状変更許可申請 ・文化庁から現状変更許可 ・国交省交付金交付申請 ・国交省交付金交付決定

注1 石垣工事は継続して実施

2 ※において、学識経験者の意見聴取を実施

3 国交省交付金は、国土交通省の社会資本整備総合交付金をいう

## 西山あさみ議員の反対討論（2015年9月30日市議会本会議）

日本共産党名古屋市議団を代表して、一般会計補正予算について反対の立場から討論を行います。反対する理由は、名古屋城整備検討調査と銘打って、名古屋城天守閣の木造復元に本格的に踏み出す予算が計上されているからです。

その問題点は4つあります。

第1は市民の意見を聞かず、市民合意のない中で木造復元へと舵をきったことです。

当局は7月1日の経済水道委員会で、「木造復元を目指す」という方針を撤回し、複数の「選択肢を示しながら、市民の意見を聞き、調査結果などを丁寧に説明する」という方針を示しました。ところが、市民の意見を聞くこともなく、木造復元に向けた技術提案交渉方式による契約手続きを開始するというのは、市民そっちのけと言わざるを得ません。

昨年2月に実施されたネットモニターアンケートでは「耐震改修」が7割を超えたように、木造復元についての市民合意はありません。市民アンケートを行うというのなら、補正予算を提出する前に実施すべきです。

第2は2020年7月のオリンピックまでに竣工という無謀な方針となっていることです。

当局は委員会で、事業者募集の条件として2020年7月までの竣工を明示しました。市の調査では、天守閣本体だけでも、解体に3年、復元工事に6年、合わせて9年。しかも、御殿の工事と重複しないよう「本丸御殿完成後に木造復元に着工するのが望ましい」という結果が出ています。こうした調査結果を棚上げにする工期の設定は資材や人件費の高騰をまねき、事業費が跳ね上がることはあきらめかです。

第3は概算事業費も明らかにせず、財源のめどがたためままでの強行は市民の暮らしに犠牲を強いる恐れがあることです。

木造復元といっても木材や仕様により270億円～400億円と大きな幅があります。概算事業費も示さず事業者まかせにするのはあまりにも無責任です。国からの補助金確保のメドも立っておらず、市の財政見通しも厳しいもとの、巨額の市費を投入すれば市民の暮らしに大きな犠牲を強いることになりかねません。

第4は、「特別史跡名古屋城跡全体整備計画」では、天守閣については耐震改修を進める方針であるにも関わらず、木造復元に方針を転換することは、この「全体整備計画」との整合性がとれないことです。

以上の点から、天守閣の木造復元には大きな問題があり、いま急ぐべきではない!と申し上げて討論を終わります。

# Q3

## 再建するなら木造復元しかない？



# 整備手法の選択肢は3つあります

### ■ 木造復元、復元的整備、耐震改修

名古屋城跡は国の特別史跡として指定されていますから、名古屋市だけの判断で、現存する鉄筋コンクリートの天守閣を解体することも、その後に復元することもできません。文化庁から現状変更許可を受けなければなりません。

文化庁は、天守閣整備について以下の見解を示しています。

- ・天守の再建については、整備主体である地元の自治体がどのような内容の整備を行うか考えることが第一
- ・その上で、天守を復元する場合は、原則として材料等は同時代のものを踏襲する必要があるが、それ以外の可能性を排除するものではない
- ・名古屋城天守閣については、往事の資料が十分そろっていることを踏まえると、いわゆる復元検討委員会において木造によるできうる限り史実に忠実な復元をすべきとの意見が出される可能性が極めて高いと考えられる

※「復元検討委員会」とは、歴史的建造物の復元に関する具体的案件等について検討を行うため、文化庁に設置された専門委員会

文化庁の見解では、「(木造復元) 以外の可能性を排除するものではない」とされていますので、外観を復元しつつ、内部は展示室などとして利活用する観点から意匠・構造を変更する「復元的整備」もありえます。ですから、名古屋城天守閣を整備する手法としては、①木造復元、②復元的整備、③耐震改修の3つがあります。

当面は、耐震補強と改修で長寿命化を図り、建て替えが必要な時期になったら、木造復元か、復元的整備かを検討するという選択肢もあります。



### 現在の天守閣の耐震改修

- ・コンクリートの耐用年数は残り 40 年以上
  - ・耐震改修の総工費 29 億円。工期 3 年
  - ・エレベーター 1 基を 7 階まで延伸
  - ・空調等や設備更新、外壁や屋根の改修等を実施
- (2012 年 2 月 19 日、市主催の市民大討論会資料)

# Q4

## 2020年の東京オリンピックまでに復元？



### 無謀な方針です。期限設けずに議論を

天守閣の木造復元について河村市長は、「2020年の東京オリンピックまでに完成させたい。400年前は2年でできた」と言っています。名古屋市も、ゼネコンから技術提案を公募する条件として、「2020年7月までの竣工」を明示しました。東京オリンピックまで5年弱。間に合うのでしょうか。

#### ■ これまでの市の調査では解体3年、復元6年

これまでの市の調査では、天守閣の解体工事に約3年、石垣の改修工事に約9年、天守閣の復元工事に約6年、合わせて約18年かかるとされてきました（右表）。名古屋市は、東京オリンピックに間に合わせるために、石垣工事は天守閣の復元後に先送りする考えですが、それでもオリンピックに間に合わせるのは至難の業です。

名古屋城の本丸では現在、本丸御殿が工事中。完成は2018年度の予定です。名古屋市の調査では、「工事ヤード、入場者動線の観点からみた場合、本丸御殿完成前に木造復元工事に着工すると、本丸御殿の素屋根があるため、小天守の仮設工事を行うことができない」などの理由から、「本丸御殿完成後に木造復元工事に着工するのが望ましい」（『名古屋城整備検討調査報告書』2015年3月）と結論づけています。

いままでの市の調査結果も無視して、東京オリンピックに間に合わせようというのは、無謀な方針です。「急ぐ必要はない。50年、100年後を見据え、よりよいものになるよう取り組んでほしい」——名古屋城の観光ボランティアの方からも声があがっています（「中日」11月19日、堀部浩旦さん）。

平成24年度名古屋城天守閣木造復元概算経費・工期算出調査による工期

区分	工期
解体工事	約3年
石垣工事	約9年
復元工事	約6年
全体	約18年

#### 本丸御殿の復元

##### 「一筋縄ではいかなかった」

「特別史跡の現状変更には厳しい制約があり、（本丸）御殿の復元に当たっては文化庁の委員会でも細かく審議された。委員会の開催は年2回ほどに限られており、それに合わせるには、スケジュールに余裕がないと厳しい」「名古屋城の天守閣は国内で最大の規模。もし復元となれば、設計には少なくとも、御殿と同程度（2年）か、それ以上の期間が必要ではないか」

（「中日」10月31日、文化財建造物

保存技術協会・春日井道彦さん）

# Q5

## 史実に忠実な復元は可能？



### エレベーター設置など課題が山積

河村市長は、「史実に忠実に復元すれば、将来は国宝になる」と言っています。河村市長のいう「本物、復元は可能でしょうか。

名古屋工業大学大学院教授の麓和善さんは、「正確な復元とは本物が残る天守台の石垣を修理した上で、石垣内部の穴蔵から上をすべて木造で忠実につくこと」（「中日」10月9日）と語っています。ところが、名古屋市の調査では、基礎構造については「木造による史実に完全に忠実な復元計画は困難」であるとして、「1階より下部は鉄筋コンクリート構造とする」（『名古屋城整備検討調査報告書』）という考えが示されています。図面は残っていても、「正確な復元」は簡単ではないのです。



現在の名古屋城天守閣には後付でエレベーターが設置されている

元文化庁主任調査官の田中哲雄さんは、「天守閣は急な階段が多い。障害者への対応をどこまで考えるのか、かなり議論になるだろう。煙が出た場合の排出もどうするか。出入り口が一カ所でいいのか、安全性の確保も課題だ」（「中日」11月6日）と語っています。日本共産党市

議団は、エレベーター設置の有無について、市議会で河村市長と議論しています（別項）。「エレベーターはない方がええ」という河村市長ですが、市の『名古屋城整備検討調査報告書』では、小型エレベーターの設置についても検討されています。

「本物復元」「将来は国宝」などと河村市長は安易に言いますが、史実に忠実な復元には、解決しなければならない課題が山積しているのです。

#### 河村市長「背負子（しょいこ）でおんぶすれば」

2013年の6月議会では、天守閣のバリアフリーをめぐるこんなやりとりがありました。

◆（田口一登君）本物に近い木造復元には、容易に解決することができないさまざまな課題があります。……急な階段や段差が多く、バリアフリーとならず、お年寄りや体が不自由な方の観覧には支障があるのではないかと。

◆（河村市長）背中にしょうやつがあるでしょう。どういふのやったね。（「背負子」と呼ぶ者あり）背負子ですわ。ああいうのを持って、1人ずつ、それこそ名古屋市立大学の皆さんにボランティアで上がってもらったらどうですか、階段を。どんだけあったかい、ぬくとい市民になるんですか。

# Q6

## 木造復元の事業費は 400 億円？



# 税金は、木造復元よりも福祉・暮らしに

名古屋城天守閣の木造復元には巨額の費用がかかります。概算経費は 270 億円～ 400 億円（表）。河村市長の意向通りに東京オリンピックまでの 5 年弱で完成させようとするれば、工期は 3 年程度となり、毎年 90 億円～ 130 億円余もつぎ込まなければなりません。そんなお金があるのでしょうか。

名古屋市の財政は、大企業・金持ち優遇の市民税減税によって 110 億円余も税収が減っています。市の財政収支の見通しでは、2019 年度には 176 億円もの歳入不足が生じるとされています。こんなときに天守閣に莫大なお金をつぎ込んだら、福祉・暮らしの予算にしわ寄せが及ぶことは避けられません。

河村市長は、「市民に市債の購入を呼びかけて、財源を賄う」と言いますが、木造復元への市民の盛り上がりはなく、市民の暮らしが厳しい中で、どれだけの市民が市債を購入するのでしょうか。市債は借金ですから、ツケを先送りするだけ。「税金は、天守閣木造復元よりも福祉・暮らしに回せ」——これが多くの市民の声です。

名古屋城天守閣木造復元概算経費

区 分	金額
ほとんど節のない国産材を使用する場合	400 億円
節の有無・多少を問わず国産材を使用する場合	320 億円
柱に節のある国産材、柱以外に外国産材を使用する場合	270 億円

### ■ 国の補助金は当てにできない

「東京オリンピックまで」と期限を切ると、国からの補助金もたいして当てにできません。木造復元のために国から支出してもらえそうな補助金・交付金は、文化庁の「歴史生き活き！史跡等総合活用整備事業補助金」と、国土交通省の「社会資本整備総合交付金」があります。

しかし、文化庁の同補助金は、全国の自治体が約 65 億円を 400 件ほどの事業で分け合っており、最大でも 1 件 2 億円程度。文化庁の文化財調査官は日本共産党市議団に対し、「自治体からのすべての要望に応えるのは難しい」と言っています（2015 年 11 月 12 日）。

国土交通省の同交付金については、市議会経済水道委員会で自民党議員が、「国土交通省が 2020 年までは、優先配分はオリンピックやラグビーのワールドカップだと言っていることを承知しているか」と質問し、市当局は「国土交通省の担当官と話していると、そういう声を聞いている」と答弁。市当局も、国の支出金はあまり当てにできないことを認めています。木造復元のための財源確保のメドはたっていません。



# Q8

## 名古屋城の魅力アップは？



### あるものの解体よりも、無いものの復元を！

河村市長は天守閣の木造復元にこだわっていますが、名古屋城の歴史的遺産としての価値は、天守や御殿などの建造物だけではありません。石垣や堀、庭園、さらに地下に埋蔵されている遺構など、すべての文化財によってつくられています。こうした歴史的遺産としての価値と、文化的シンボル、文化観光資源、公園緑地など名古屋城が持つ多様な役割をふまえて、今後の保存・活用をすすめるために策定されたのが、『特別史跡名古屋城跡全体整備計画』です。

この『全体整備計画』の中には、天守閣の木造復元という言葉は1か所も出てきません。天守閣については耐震改修整備という方針が示されています。『全体整備計画』の見直しも行わないで、木造復元に向かうというのでは、『全体整備計画』との整合性がとれません。

#### ■「城の歴史的景観を再生」

『全体整備計画』では、名古屋城整備の基本方針として、「戦災等で滅失した建造物、二之丸庭園、その他城の歴史的特色を示す遺構の復元整備を行い、城の歴史的景観を再生させていく」とされています。

名古屋城の整備スケジュール

		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35～	
本丸御殿の復元	玄関・表書院等	公開中										
	対面所等	復元工事		公開								
	上洛殿等	復元工事				公開						
二之丸庭園の保存整備（名勝指定区域から順次）		発掘調査・測量・整備										
展示収蔵施設の整備		設計・整備・収蔵物移転						公開予定				
カヤの保全		保全										
石垣の修復（本丸搦手馬出から順次）		調査・解体・積み直し										
本丸御殿障壁画の修理		修理										

(名古屋城公式 HP より)

本丸については現在、本丸御殿が復元中（2018年度に全体公開予定）であり、さらに本丸を囲む<sup>たもん</sup>多聞や<sup>すみやぐら</sup>東北隅櫓の復元を行い、「本丸の輪郭を明確にし、ランドマークとしての城の再生を狙う」とされています。

また、二之丸庭園の保存整備や石垣の修復工事なども進められています（前頁表）。

「今あるものを壊して作り直すより、まだないものを復元する選択肢があっていい」——識者からも声が上がっています（麓和善名古屋工業大学大学院教授「中日」10月9日）。



### <sup>たもん</sup>多聞とは

多聞とは、城の石垣の上にある長屋風の櫓をいいます。写真は彦根城の佐和口多聞櫓（同城HPより）。

名古屋城本丸には三方に<sup>すみやぐら</sup>隅櫓は現存していますが、櫓をつないで本丸を取り囲んでいた多聞は滅失したままです。

## 名古屋城は天守と御殿だけじゃない

名古屋城内をじっくり見て回りました。

観光客が真っ先に向かうのは、天守閣と本丸御殿ですが、他にも見所がいっぱいあることに気づきました。たとえば、写真右上の本丸東二之門。現存する3つの門の一つで、重要文化財です。もともとは東鉄門（ひがしくろがねもん）と呼ばれ、二の丸東柵形（愛知県体育館に入る石垣で囲まれたところ）にありました。本丸東二之門跡の石垣には有名な「清正石」も残っています。

写真右下は、南蛮練堀（なんばんねりべい）。二の丸庭園の北側にある堀沿いの土堀です。円形の鉄砲狭間が見られます。写真下は、本丸の北西に位置する御深井丸（おふけまる）にある「乃木倉庫」。明治初期に建てられた旧陸軍の弾薬庫です。戦争末期に本丸御殿の障壁画が保管されていた場所の一つだそうです。御深井丸には重要文化財の西北隅櫓も現存しています。

二の丸庭園や御深井丸では、ほとんど観光客に会いませんでしたが、豊かな緑の中で歴史の息吹を感じることができました。

（「田口かずとのブログ」2013年6月13日より）



# Q9

## 日本共産党市議団はどう考える？



### 耐震改修し、木造復元は将来の課題に

名古屋城とその天守閣の整備をどのようにすすめるのか。大事なことは、市民の声を聞いてすすめることです。市民の意見も聞かずに、木造復元へと踏み出した河村市長のやり方には、市民から批判の声が上がっています。木造復元を急ぐべきではありません。

日本共産党名古屋市議団は、以下の方針で取り組みます。

- 名古屋城天守閣については、耐震補強を含む長寿命化をすすめ、ぼう大な費用を要する木造復元については将来の市民にその判断をゆだねる。
- 二之丸庭園の保存整備を優先するなど、『名古屋城跡全体整備計画』に沿って総合的かつ計画的に進め、城跡全体としての魅力向上につとめる。

(「2016 年度市予算編成にあたっての要望」より)

#### コンクリート改修えらんだ小田原城

名古屋城の1年遅れで天守閣が再建された小田原城も、耐震性が課題とされる一方で、「木造で再建を」という声があがっています。

小田原市は、2011年8月から専門家や市民代表による「天守閣耐震改修等検討委員会」を設置し、耐震改修とともに木造復元の可能性についても検討してきました。その結果、「喫緊の課題である耐震改修を速やかに行う」「木造復元の可能性はないわけではないので、今後さらに資料の収集と研究を続けていく」という結論に達しました。

今年7月から、既存の壁の横にコンクリート製のブロックを積み上げ、壁を厚くする耐震改修工事に着手。この工事だけでも、20～30年は持ちこたえられるそうです。

木造復元に向けての名古屋市のやり方は、小田原市のように専門家の英知を集めて検討を重ねるという手立てを講じていません。コンサルタント会社やゼネコン任せの余りにぞんざいなやり方です。



---

memo

A series of horizontal dashed lines for writing.

# 住民が主人公の市政に 力を合わせてがんばります



**北区**  
岡田ゆき子  
TEL 915-2705



**西区**  
青木ともこ  
TEL 532-7965



**中区**  
西山あさみ  
TEL 263-0500



**名東区**  
さいとう愛子  
TEL 704-1928



**守山区**  
くれまつ順子  
TEL 793-8894



**昭和区**  
柴田民雄  
TEL 858-3255



**天白区**  
田口一登  
TEL 808-8384



**緑区**  
さはしあこ  
TEL 892-5190



**港区**  
山口清明  
TEL 651-1002



**南区**  
高橋ゆうすけ  
TEL 692-4312



**中村区**  
藤井ひろき  
TEL 411-4161



**中川区**  
江上博之  
TEL 363-1450

ご意見・ご相談はお気軽にどうぞ  
日本共産党名古屋市議員団

〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号 名古屋市役所内  
TEL 052(972)2071 Fax 052(972)4190 mail.dan@n-jcp.jp  
ホームページをご覧ください <http://www.n-jcp.jp/>

どうする名古屋城天守閣木造復元

Q & A

2015年12月発行